

令和2年度 第1回魚津市総合教育会議 議事録

令和2年10月1日(木)

16:00~17:00

魚津市役所第1会議室

- 【出席者】市長 村椿 晃
副市長 四十万 隆一
教育長 畠山 敏一
教育委員 伊東 潤一郎、山浦 春美、片山 さゆり、松本 修治
事務局 企画総務部長、教育委員会次長、学校教育課長、教育総務課総務係長、
企画政策課長、地域協働課長、こども課長、生涯学習・スポーツ課長、
水族博物館管理課長、埋没林博物館長、図書館長、給食センター所長、
企画政策課課長代理

【議事録】

事務局 (企画政策課長)	皆さんお揃いでございますので、ただ今から令和2年度魚津市総合教育会議を開催いたします。開催にあたり、魚津市長 村椿晃がご挨拶申し上げます。
市長	委員の皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。 先ほど、新たにご就任いただきました松本委員に辞令をお渡ししました。これからよろしく申し上げます。 現在新たな魚津市総合計画の策定を進めています。この計画に合わせる形で魚津市教育振興基本計画の改定を進めるということになっています。 教育を取り巻く環境、現在国の方では、学校教育環境を抜本的に変えていくということ、30人学級を本気で取り組んでいくということ、教育のみならず社会システム全般にデジタルトランスフォーメーションを入れていこうという動きもあります。 我々が社会の大きな変革期にいるという認識のもと、これからの時代を生きていく子供たちの教育をどう取り組むべきか真剣に議論し、できることをしっかり取り組んでいくという気持ちでいっぱいです。 どうか皆様方の英知をお借りして、魚津市の教育を素晴らしいものにしていきたいと考えている次第です。今日はどうぞよろしく申し上げます。
事務局 (企画政策課長)	それでは議事に入りたいと思います。ここからの議事の進行は、市長にお願いします。
市長	次第に沿って、魚津市教育振興基本計画について事務局から説明してください。
事務局(総務係長)	魚津市教育振興基本計画について説明
市長	この後のスケジュールについて教えてください。
事務局(総務係長)	11月に第2回魚津市振興基本計画策定委員会を開催し、基本計画の素案を決定しま

市長	<p>す。2月に第3回の策定委員会を開催し、答申していただく予定となっています。</p> <p>今日の委員の皆様のご意見を、11月までに作成する計画に生かさせて頂きたいということになります。</p> <p>皆様方から忌憚のないご意見を頂きたいと思います。この場は、自由に話をする場でもあります。ICTの環境整備について話がありましたが、2期計画は、機器を活用することが言われています。</p> <p>お手元に配ったのは、魚津市プログラミング教育推進協議会の資料です。先月の28日に協議会の立ち上げの会議を行いました。委員長には、東大の客員研究員の上松恵理子先生をお迎えして、来年度以降、どのような事業を行っていくか話をしました。委員の7名の中には、民間企業の方もいらっしゃいます。例えばプログラミング教育の教室を展開している事業者の方がいらっしゃいます。</p> <p>プログラミングのもう一つの話ですが、魚津市はパナソニックの企業スポーツセンターと連携協定を結びました。コロナ禍により直接の指導ができないので、オンラインで一流のアスリートの指導を市内の子供たちに受けてもらうというものです。コロナが収束すれば、トップアスリートが来て小中学生に指導するものです。先日は、バレーボールを開始しました。ラグビー、卓球、陸上などのパナソニックが持っているスポーツ資源を生かし、競技そのものを教えるのではなく、考え方や、スポーツを通じた人間形成などを学べる場面を多くしていこうと思っています。市だけではなかなか展開できない部分を民間の力を取り入れてパワーアップしたいという思いがあります。</p> <p>推進協議会の本当の目的は、プログラミングの中身を構築するのではなく、これにあたる先生方をどのようにサポートするかということが主眼です。それに関わってくれる民間の仲間との連絡調整をしていこうということを確認しました。現在は、外部環境は整っているが、中身はこれからという状況ですので、今後の魚津市の教育なり地域社会の学びの環境についてのご意見をいただければ、計画に盛り込んでいくときに助かるなあという思いがあります。</p> <p>そんなことを念頭に置いて頂き、ご意見いただきたいと思います。</p>
伊東委員	<p>魚津市でプログラミング推進協議会を行うということは、素晴らしいことだと思います。工業会で中学生にもものづくりの楽しさを伝えるために、講師の派遣や工場見学の事業を展開しています。その打合せの中ででてきた話で、小学校で均質的に学んで中学校につなげてもらわないと次にステップにあがれないので、もっと企業が協力すべきという話がありました。</p> <p>ICT教育の話ですが、日本の教育システムのどこに問題点があったのかということですが、日本の教育でオンライン授業ができないこと、オンライン授業が教育基本法上授業と認められていないということでした。オンラインの授業も学校の授業と認めてもらわないことには、コロナ禍の中では、できないということになります。</p> <p>道具については、何とでもなる。問題は、ツールをどのように活用していくかということについてです。授業のためのコンテンツを買うのも一つですが、先生方が集まって作っていくことが必要だと思います。</p> <p>オンライン授業の最大の欠点ですが、双方向での授業ができないことだと思います。</p>

	<p>外国はそのレベルにいつているということです。オンラインを使って授業を受け、相手とのコミュニケーションをとる能力がついているということです。</p> <p>オンラインの双方向で行う授業についてもっと考えなければならないと思います。</p> <p>学力と心と体力は、子供を育てる大きな要素ですが、オンラインになった時に心の教育が一番できません。心の教育は学校で行うべきものではなく、家庭で行うものと多くの方が気づかれたと思います。学校だけでなく、家庭における心の教育について考えることが必要と思います。</p>
市長	<p>制度上、オンラインは授業にならないのでしょうか。</p>
教育長	<p>対面でお互いにコミュニケーションを取りながらというのが学校教育であると思っています。オンライン学習により、学校教育が完結するとは思っていません。</p>
山浦委員	<p>今後、休校になったことを考えたら、魚津市でオンライン授業が成立するのかということが一番心配です。オンライン授業の効果はどれくらいあるのかと考えます。学校に来てこそ、子供達との関わりがあって学校教育ができると思います。</p> <p>学校は小さな社会ととらえていて、やがて大きな社会に出ていくための予行練習のような小さな社会です。人と関わることで得られるものが多いので、知識や学びだけの理解でないと思っています。オンライン授業はコロナ禍で学校に行けない場合の緊急事態の時に使えるものというとらえ方が今のところ非常に強いです。オンライン授業で心の教育ができるということが実証されればそれでもいいのかなと思います。</p> <p>魚津市でオンライン授業はできますか。</p>
窪田次長	<p>一人1台の端末配備の準備を進めています。まず、11月に中学校に配備予定です。その後順次配備し、2月末を目安にすべて配備する予定です。併せてネットワーク環境も整備していきます。電子黒板も各クラスに配備します。今後各家庭のネットワーク環境について調査する必要があります。以前、ある程度のアンケート調査をしています。詳細について検証していく予定です。</p> <p>今後、先生方の負担がかなり大きくなるものと思っています。夏休みからオンライン授業の研修を始めています。今後、実際にオンライン授業をやってみないとなかなか成立しないかなという心配をしております。</p>
教育長	<p>補足しますと、6月に小中学生のネットワークの環境について調査しました。端末もネット環境もある83%、どちらもない3%、端末及びネット環境のどちらかがあるは14%という結果でした。</p> <p>この調査は、すべての生徒の結果ではありません。この当時の調査は2,700人弱の調査で、調査できていない生徒は約100人います。</p>
市長	<p>端末、ネットワーク環境のどちらかがないも含めると、約400人ぐらいですかね。実際、オンライン学習を始めるとなると、そのような方々にどのように対応するということが課題になりますが、どのように考えていますか。</p>

窪田次長	<p>市教育委員会では、国の補助により各家庭のネット環境を補助するサポートをしています。</p>
市長	<p>先生方が、オンライン授業に使用する資料を個別に作成することはとても大変だと思います。既製品だけの対応もなかなか難しく先生方は悩んでおられると思います。授業の資料を作成するために共同することやサポートがとても大きい要素になるのかなという気がしています。</p> <p>学校現場においてICT機器の設定やカスタマイズなどやれるようにするために支援員が学校を回っています。この体制をもう少し手厚くしないと活用がタイムリーにできなくなっていくという課題があると思っています。なかなか支援員がいない中、民間の力を活用できればと思います。</p>
松本委員	<p>対面形式授業とオンライン授業 このようなハイブリットな環境を整えなさいと国も言っています。オンライン授業は理想かもしれませんが、コロナ禍でなくでも、10年後には、対面形式授業とオンライン授業の併用は向かうべき方向だと思います。</p> <p>オンライン授業のソフトを誰が作るのかということがありますが、やはり莫大な時間がかかります。通常授業をビデオにとって流しても子供たちは、興味をもってみるのかというのも疑問です。コロナが収束した後は、オンライン授業もですが、オンライン学習がやろうと思えばすぐやれる環境を整えることが必要です。EdTechという言葉があり、EducationとTechnologyを融合させて新しいイノベーションを起こすビジネス領域を指します。民間企業が環境を整える機会を研究していますので、調べてみる必要があります。</p> <p>子供たちの心の教育はとても大事です。人と人の関わりは、直接交わらないとなかなか難しい部分があります。このようなことはみんなが学校に集まった時に重点的に行わなければなりません。</p>
市長	<p>プログラミング推進協議会で上松先生と話していたのですが、先生方の働き方改革の側面があると思います。現時点ではまだ入り口の段階なので、そこを乗り越えるのが大変だという話をしておりました。先生方が心と体にゆとりがあり、子供達に余裕をもって接する環境でないといい学校環境にならないと思います。</p>
片山委員	<p>親の立場から言わせていただきます。ICT環境はあっという間に整備されると思います。また、今過渡期なのでコンテンツを作ることに葛藤があると思います。いずれ良いコンテンツが共有されます。仕事のPR動画を作ろうと取り掛かりましたが、あっという間に良い動画が出てきて、自分たちで時間を費やして作るよりは、それらを見ていただければ十分なのではないかということになりました。ということで得意な人の力を借りることができるのではと思っています。</p> <p>体験経験が子供の成長の過程で大事だと思っています。コロナ禍でそれらがなくなるととても危惧しています。</p> <p>また、マスクをしていることにより表情が半分見えません。表情で伝えるとか、喜怒哀楽がお互いに伝え合うのが難しくなって、精神面や成長面に影響がでないのかなとい</p>

<p>市長</p>	<p>う心配をしています。リモートであればマスクを外すこともできるので、大いに活用していけばと思います。小さい子供こそ人の表情を読み取っていると思います。</p> <p>I Tリテラシーを高めるのも大事ですが、A IやI Tにできない心の教育は担任の先生にしかできないことであると思います。心の成長にどのように向き合っていけるのかということを心配しています。</p> <p>ノウハウの共有化ということはすぐにできますが、これらが進むと余計に体験経験が必要であると感じてくると思います。タウンミーティングなどで言っていたのですが、九州のある市では、子供達に学習を教えるというよりも、しつけ、生きる力、伝統文化、自然体験、危機を乗り越える力など、社会全体で子供を育てる取組みしています。10年以上前から取り組んでいて、全部で100ぐらいの寺子屋・塾・講座みたいなもの運営しています。市や地域、民間でやっています。</p> <p>オンラインなどは学校を中心に組み上げて、子供達の生きる力を学校ではなくて地域等でできないかなと思っています。</p> <p>そのようなことを総合計画なり教育振興基本計画にリンクできないかなと思います。魚津市が子供たちに向き合うところであることを知ってほしいし、やっていきたいと思っています。</p>
<p>伊東委員</p>	<p>経済同友会では、教育問題として豊かな人間力を持った子供をどう育成していくかという取組みを行っています。その中で、学校を卒業した子供たちは、私たちの社会に来ます。どんな子供に育ててほしいか先生に分かってほしいということをテーマに活動しています。経済同友会が学校にアクションをかける最大の目的は、卒業した子供たちが自分たちの社会にきて30年40年一緒に活動していくには、どんな人間性が必要かということ伝えることです。もちろん学力は大事ですが、豊かに生きる力や物事に興味を持つことなどは、もっとやってほしいと思っています。我々が考えているのは、子供と接する大人をどう成長させるかということテーマに掲げています。子供は学校と家庭の社会で生きています。子供と大きく接するのは先生と保護者なので、どのように変えていけば、子供達の人間性につながるのか考えていただきたいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>I C Tやオンラインは究極の個を整えていることにはなりますが、子供の生きる力、しつけなどは、外とのつながりを広げるという事業展開が必要だと思っています。</p>
<p>伊東委員</p>	<p>秋田県大館市、人口8万人ぐらいの市ですが、こどもハローワークという事業があり、この事業は、地域や企業が行う仕事やイベントのお手伝い、ボランティア、職場見学や職場体験が自由に選べ、何度でも体験できるものです。体験は土日や長期休業中に行っています。この事業を視察に行こうしていましたが、コロナ禍で行けなくなっています。</p> <p>大館市の取り組みはおもしろいなと感じています。</p>
<p>教育長</p>	<p>学校統合の大きな目的の一つが、切磋琢磨してたくましい人間づくり、多くの先生や友達と交わることによって、教科の勉強だけではなく、豊かな人間になっていくための学べる環境を作りましょうということが学校教育の中であります。</p>

伊東委員	<p>また、地域においても、体験の場があればいいと思います。</p> <p>少人数の方が勉強するのによいので、統合は必要ないという意見もありますが、人数が多くても、必要なときは人数を分ければ少人数の環境はできます。</p> <p>魚津の統合が進みましたが、統合には大きな目的があるということで確認させて頂きました。</p> <p>先生の働き方改革をどのように取り組むのかということを中心の中に入れていくのが大事なかなと思います。</p> <p>スクラップ&ビルドのスクラップがなければ働き方改革はできないと思います。どうしても教育の世界もそうですし、県や市はビルド&ビルドを繰り返している。スクラップするのは大変だろうなと思います。</p> <p>もっとボランティアを活用して学校教育の現場に入ってもらおう。先生が行っている採点などボランティアをお願いして構わないと思います。いろいろ問題はあるかもしれませんがそれぞれクリアできれば、外に出してお願いできるものは何かという検討ができると思います。市内の企業にボランティアを求めて、決められた期間研修し、学校でボランティアをするなどという機会を作ってもいいのではないのでしょうか。</p>
市長	<p>先生の働き方の内容をどのような見直しできるのかということを考えていく必要があると思います。</p> <p>1日の働く時間は限られていますので、その中でどのような工夫ができるかは常に考えていく必要があります。先生方の負担が少しでも軽くなり、子供達の教えが楽しくなればと思います。</p> <p>時間となりましたが、また機会を作ってお話をさせていただければと思います。今日はありがとうございました。</p>